

平成 22 年度 府中市環境審議会  
第一分科会 第 1 回会議

---

平成 22 年 (2010 年) 8 月 3 日 (火)  
午後 6:30~8:30  
府中駅北第 2 庁舎 3 階 第 1 会議室

---

〈出席委員〉 6 名

竹内 章副会長 (第一分科会座長)、伊藤 忠委員、清水淑子委員、多田 眞委員、  
清水 勝委員、室 英治委員

〈欠席委員〉 なし

〈事務局〉

加藤環境政策課長、遠藤環境政策課長補佐、佐藤環境改善係長、環境改善係海野職員  
(株)建設技術研究所 (コンサルタント)

---

〈審議事項〉

- 1 府中市地球温暖化対策地域推進計画答申案  
(第 4 章~第 6 章について検討)

〈議事概要〉

1. 挨拶

2. 議事

- 事務局 【資料説明】
- 委員 政策と CO<sub>2</sub>15%削減のつながりがわからない。エコカー、太陽光発電等の政策が15%にどう寄与しているのか？
- 事務局 それぞれの提案項目、行動について具体的に何%やればいいのか別の形で検証が必要。
- 分科会座長 目標に対しての効果を具体的に挙げないと、事業者や行政は財政的な裏付けが出せない。
- 事務局 7章の重点取組の中で効果を含めて検討する。  
国の対策がはっきりしていない。7月の段階で試案が出たので、それをベースにして削減目標の検証を進めていく。
- 委員 府中市の二酸化炭素回復量の推移・見込み量を見ると目標年度（2010年）に2.8になれば15%減らせるという計算だが、2.8というのは現実的な話なのか。
- 事務局 現状で2.8にするには、一人当たり36%減らさなければならない。減らす際にエネルギー消費量だけではなくて、電力の排出係数の削減効果も大きいので、実際に減らす量はもう少し小さい。
- 委員 2020年123.3万トンというのは、どういうトレンドから見たのか？
- 委員 東京都環境確保条例の対象企業は、年間1500k1をオーバーした企業は、オーバー分のペナルティが課せられる。排出権取引とか、色々な事をしなければいけない。
- 事務局 事業所に関しては、都の条例に基づいた排出量抑制目標に関わってくる。
- 委員 家庭部門が増えてきているが、これのトレンドについては人口増というのがベースになっているのか？2050年27万6千人とはどのように出したのか？
- 事務局 人口に関しては、国の研究機関である人口問題研究所の推計結果を活用している。
- 委員 他の自治体と比べたら、一人当たりの排出量はどうか？
- 事務局 他の自治体と比べると、排出量は比較的少ない。
- 分科会座長 「地球にやさしい暮らし方を全員参加で実践する町」がキャッチフレーズだが、この表現はどうか。他に案はあるか。
- 委員 府中市の目指す将来像の中に緑化活動の推進とあるが、道路を浸水性の補強、拡大、推進も大事ではないか。地域の祭りの際に打ち水作戦を考えたらどうか。

- 市役所の電気自動車の導入は、審議会の成果か。
- 事務局 電気自動車の話については、第一分科会で決まった事。当面の目標としては10台くらいを目処に入れていく。市役所の業務だけで使うのはもったいないので、様々なイベントで導入した事をPRしたい。
- 分科会座長 これは審議会の成果である。
- 事務局 環境設備設計助成事業の予算を削らないでほしい。少なくとも、前年度より下回らないように組むように。透水性塗装については、市の別の計画で推進されている。
- 事務局 エコハウス設備設置補助金に関しては、市民の関心が非常に高く、昨年度は4月の段階で申し込みを締め切った。その後、新たな予算を確保し再募集を行ったが、それも6月には予算を使い切った。本制度に関しては、今後も確実に実施していきたい。ただし、補助の内容については若干の見直しを予定している。
- 委員 透水性舗装話については、車道はコストがかかり耐久性が悪いが、歩道ではかなり採用されてきている。府中市内では透水性舗装はどの位やっているのか。
- 事務局 正確な数字はわからない。試験的に入れている所もあり、10%~20%位だと思う。
- 委員 道路会社は耐久性のある透水性舗装の開発に非常に熱心。そういった企業と府中市がタイアップできないものか。
- 事務局 美好町通りで2・3年前に最初に実施している。美好町通りは大型車が通れないので、10年位はもつ。他の場所の実施状況は確認する。
- 委員 ただ、透水性は上を何年かに1回高圧洗浄しないといけない。その費用が高い。
- 分科会座長 温度を下げるという効果はどの位あるのか。
- 委員 効果はかなり高い。
- 事務局 耐久性とメンテナンスの問題がある。
- 委員 打ち水の話がでたが、名古屋、滋賀県では事業者と住民、行政が一体となって行っている。打ち水を目的・目標に上げている組織もあった。
- 事務局 市民が出来てお金がかからないから良い。市民を対象とした対策として打ち水を入れてPRしていきたい。
- 委員 緑の保全と創出とあるが、既存緑の中に農地は含まれると思って良いか。表現として入れた方がいいのか。
- 事務局 緑の基本計画の中で緑地の中に農地も含まれると書いてあるので、その解釈で良い。
- 分科会座長 東京都環境確保条例により、大規模事業者に対しては2020年までのCO<sub>2</sub>排出量削減目標が義務付けられている旨を追記してもらいたい。  
エコスクール化の推進の中に、エコスクール認定制度の検討設置とあったが今

- 日の資料では抜けているが、意図的に抜いたのか。
- 事務局 エコスクールの件については、19 ページの所に認定制度を入れている。
- 委員 グリーンニューディールとはイギリスでは経済の活性化のニュアンスがあるが、スクールグリーンニューディールとはここではどのようなニュアンスなのか。
- 事務局 環境と教育の好循環をイメージしている。
- 分科会座長 基本計画見直しの答申内容について、教育委員会の反応はどうだったのか。
- 事務局 エコスクール化については、毎年、何校かずつ実施していく話が出ている。
- 分科会座長 「エコスクール化」は最初に基本計画が出た時から使っているし、こういう物だという説明もきちんと入っている。学校の先生も含めて府中市の学校として環境総合計画を持つべきか明確にするべき。この辺をよく庁内で議論してすすめ方を検討すべき。
- 委員 外来語ではなく、市民が分かる言葉、中身の分かる言葉で表現した方が良い。
- 事務局 エコスクールの具体的な内容について、何も決まっておらず、そこが不足している。
- 事務局 計画の策定と合わせて財政的な裏付けが重要。各所管とのすり合わせが必要であり、庁内の推進委員会にも意見を聞きながら検討する。
- 分科会座長 各段階で関係組織ときちんと環境政策課が調整してもらわないといけない。そこが環境基本計画の見直しの際には足りなかった。良いものを作っても、何も理解されていなければ意味が無い。特にエコスクール化については、細かいものを作っていかなければ、エコスクール化 100%は難しい。
- 事務局 そこが一番重要と認識している。計画については、環境審議会の中で揉んでもらうが、その方針を活かしていく以前に、最終的な方針になる前にパブリックコメントや庁内での審議をしてもらって、審議会の委員には、プランを出してもらって、できる事に関しては前向きに実施させてもらう。その後、最終的な方針として上げて、計画書の形で市民にリリースしていく。この地球温暖化の計画を策定しリリースすると合わせて、見直しの部分も庁内の各職員、市民に対しても理解してもらえるようにする。
- 委員 事業所に関する取り組みは、すでに多くの事業所が取り組んでいる内容である。事業所や工場の見学をするのも良いと考える。
- 委員 大規模な事業所は問題無い。中小の事業者はどうか。中小事業者が目をつける具体的な施策があるのではないか。
- 委員 取り組むべき項目の絞込みが重要。
- 委員 本計画では「市民の取り組み」を当然やるようになっているが、強制ではないから、市民の協力が必要。市民の取り組みに対する動機付けが不足している。

- 事務局 対策の一環として、一日の流れの中で、こういう取り組みをした場合としなかった場合にどれだけ差があるか、次回示す予定である。
- 委員 緊張感を維持する仕組みが必要である。また、「環境負荷を減らす」という考え方が欠けているように感じる。
- 分科会座長 次回の議題は、実施体制の検討としたい。私の方で「案」を作成してきた。これも参考としてもらいたい。

以上